

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成 研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年11月14日

氏名 (フリガナ)	井出ともみ (イデトモミ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2017年10月8日(日)～10月14日(土)
所属機関名	信州大学医学部付属病院
身分	看護師

ポートランド看護研修～患者・家族のための医療とは～

アメリカ・ポートランドでの研修は、私の期待以上に充実した研修となりました。

様々な病院、施設の見学、レクチャーを受けた中で、それぞれに共通していると感じたことは、患者・家族のための医療が基本ということです。

それを象徴するような病院として、マグネットホスピタルがあります。“患者・医師・看護師を磁石のように引きつけて放さない、魅力のある病院”という、アメリカを中心とした、マグネット認定を取得している病院で、この認定をとるための、病院の様々な働きや工夫をみることができました。例えば、カテーテル感染や転倒などの最後に起こった日付を、患者や家族、職員の見えるところへ提示し、実際の医療の“成果”が一目で分かるようにしていました。

また、患者が良い医療を受けるためには、医療者も良いモチベーションを持って働いていることが大切です。病院の通路やホールには、病院のモットーや、今月の看護師の表彰、貢献した医療者の名前の提示などがしてありました。病院の中を歩いているだけで、職員が誇りを持って働いているということがわかりました。看護師の質という面では、アメリカでは経験が優遇され、成果を上げればそれだけ待遇でも評価されるようで、看護師の自己研鑽や、看護の質の向上にもつながっていると思いました。自己研鑽のためのバックアップ(資金援助や有給の習得)などもあり、キャリアアップすることでのメリットの方が多いと感じました。

患者だけでなく、家族のことも考えた医療だと感じたのは、ICUやNICUでさえ、家族の面会は24時間いつでも可能であったことです。印象に残っているのは、ICU看護師が話してくれた、家族の定義はそれぞれ違う、ということです。血縁は関係なく、患者が家族とみなせば、家族である、と。日本では、血縁で家族という認識が多いですが、様々な形の家族が増えている現代では、必要な考え方だと思いました。小児病棟では、子供のプレイルームだけでなく、親用の休憩室もありました。また、病院内の掲示板には、外来患者が、検査や処置など何をしているのか、家族や付き添いの人にも分かるよう表示してありました。療養型の高齢者施設では、利用者の部屋や、食堂とは別に、家族で食事のできるダイニングルームがあり、ひとつのアパートのような雰囲気、自宅を出て入所する利用者にとって、とても大切な環境だと思いました。

患者・家族のための医療の提供は、もちろん当たり前のことではありますが、実際に成果を出して、それが見える現場はなかなか難しいと思っていました。今回の研修では、そのために何をすればいいか、新たな視点や、変えるためのヒントをもらえたと思います。また、それを実行することの大切さを学ぶことができました。

